

平成 22 年度 第 2 回海域の物質循環健全化計画検討委員会における指摘と対応

気仙沼湾について

気仙沼湾について主に以下のようなご議論を頂き、議事の内容については地域検討委員会事務局に伝えた。

- ・「二枚貝養殖場への有機物の集積」は、植物プランクトンが摂食されて下に落ちるといふ自然現象と養殖場でメンテナンスのために行われる付着生物の除去などの人為的インパクトがある。モデルのなかでどのように表現するかを考えるとときに重要となってくる。
- ・養殖場だけでなく、自然に繁茂している藻場の栄養塩ストックも重要である。この周辺では、水産庁が環境保全漁業のために藻場再生や磯焼け防止のウニ除去などを実施している。
- ・底泥から水に溶出してくる栄養塩負荷に着目しているが、エスチャリー循環流は、栄養塩が底層から表層の生産層にもたらすことを考慮する必要がある。
- ・伏流水や地下水などによる栄養塩の供給についてはどうか。
- ・藻場の量や機能の変遷を把握することを、検討課題に追加するという点でよいか。
- ・外海水の影響も考慮したほうが良い。気仙沼湾では親潮の影響があると考えられる。湾口部の TN、TP が季節によってどのような値となっているのか、また、エスチャリー循環によって湾外から湾内への流入する窒素量などを把握しておくべきである。

三河湾について

三河湾について主に以下のようなご議論を頂き、議事の内容については地域検討委員会事務局に伝えた。

- ・ピコ・ナノプランクトンの影響は三河湾特有のものではなく、今まで考慮されてこなかっただけだと考える。例えば、東京湾などでも同じ状況が考えられる。富栄養の海域では考慮すべき事項であるという理解でよい。
- ・「生物生産性確認調査」の実証試験としての位置づけは、いわば AGP 試験のようなもので、AGP 試験を行うことで、栄養塩濃度だけで評価できるのかどうか、質を考慮する必要があるのかどうかを確認するために行いたい。

播磨灘北東部海域について

播磨灘北東部海域について主に以下のようなご議論を頂き、議事の内容については地域検討委員会事務局に伝えた。

- ・ため池を管理している方々は、池さらいをしたかったが、海に栄養塩のあるものを出してはいけないと思っていた。地域検討委員会をとおして海域に窒素分が足りないことを知り、池さらいした泥も使えるのであれば、協力したいとのことであった。このように、陸側からも海側からもヘルシープランに期待が大きい。
- ・ため池をとおした取組の事例は、物質循環を改善するために陸域の環境管理と海域がどのようにつながっていくのかという展望を示しているように思える。

「海域ヘルシープラン策定要領」について		
委員名	指摘内容	対応内容
寺島委員	誰が、どのように取り組むのか、がポイントであると考え。「役割」や「関係者」をどのように取り上げていくのかということが、このヘルシープランが地域にとって役立つものになるかにどうかのカギとなる。関係者の部分を丁寧にとりあげることが、具体的な結果につながるので、大事ではないか。沿岸域は多くの主体が関係してくる。関係者が入れられるようなヘルシープラン策定要領にしてほしい。	ご指摘を踏まえ、資料 - 2 に対応を記載した。
松田座長	いろいろな地域で関係者が集まっていいプランができて、関係行政機関や法令が大きなハードルとなる場合も実際にある。そういったものにどのようにアプローチするのかということは非常に重要な点である。ヘルシープラン策定要領はマニュアルのようなものであるため、この点は詰めていってほしい。	
藤原委員	「5 - 2 方策の効果の評価」が重要と考える。関係者に、協力した場合にどのようなメリットがあるのかを示す必要がある。科学的根拠に基づいて示す必要があり、ヘルシープラン策定要領で補強してほしい。	
松田座長	「5 健全化に向けた方策」の「5-6 方策実施のロードマップの作成」にある「役割」が分かりにくいので工夫してはどうか。	
西村委員	6 モニタリング計画」の「6-4 モニタリング結果の評価」では順応的管理の考え方が記載されている。これを大きく「モニタリング計画」の中でくくるには違和感を感じる。順応的管理の考え方をおもてに出したほうがよい。	
松田座長	プラン全体の P D C A における位置づけを明確にしたほうがいいのかもわからない。	

委員名	指摘内容	対応内容
物質収支モデルについて		
中田（喜）委員	三河湾地域検討委員会の議論の中ではモデルで予測するか否かは別として、植食性あるいは肉食性の魚類やクラゲが物質循環に与える影響が大きい、という話となっていた。何らかの形で入れる、ということになっていたと認識していた。	直接モデルには組み込めないが、モデルの結果等を踏まえて、整理・検討していきたい。
松田座長	既存のデータでカタクチイワシの漁獲量や資源量が変化していれば、その変化が物質循環に及ぼす影響はどの程度かという事などを検討したほうが良いと思う。	
鈴木委員	三河湾地域検討委員会の議論の中で、外海の影響をモデルに取り入れる、という話もでていたと認識していたが、資料からは読みとれない。考慮して頂きたい。	今回の議論は、今年度の検討しているベースモデルの部分を示している。モニタリングポストのデータの利用など外海の影響については、来年度のモデルによる検討に反映していきたい。
藤原委員	播磨灘北東部海域からの要望として、港湾内にある深堀跡の底層 DO が、対策によってどの程度上昇するのかモデルで評価してほしい。	播磨灘北東部地域検討委員会と調整しながら検討していく。
松田座長	これもできる範囲で検討課題に追加してほしい。	